障害者を受け入れる環境づくりを

田上　リハビリを終えたばかりで障害者としての活動経験が全くなく、白紙の状態でアメリカに行ったものですから、生活体験学習ということから始めました。半年ほど日本で車椅子で生活していた時とはかなり様子が違っていました。障害者であるとか、差別されているというような実感を、アメリカではほとんど持ちませんでした。**どういうふうに障害者を扱うのかよく教育されているというか、自然に生活の中で学んでいるんだなあと思いました。**日本では手をさしのべたいと思っている人たちは多いはずなんですが、どう接していいのかわからないんだと思うんです。だから、障害者自身もどんどん街に出ていかなきゃいけないし、教育とか、社会参加という面でどんどん障害者を受け入れられるような環境づくりを是非進めていただきたいと思います。それには私たちの意見というものが絶対必要だと思いますので、今後はどんどん機会を見つけて参加させていただきたいと思います。

知事　アメリカでは差別を感じなかったのに、日本では感じますか。

田上　参加の機会がまだ限られているなと感じます。アメリカでは最大限に自分で自立して生活できるような環境、システムになりつつあります。完璧なまでではないと思いますけれど。

カリフォルニア州バークレーの路線バスから一人で降りる田上さん。

高齢者と障害者の声を行政に

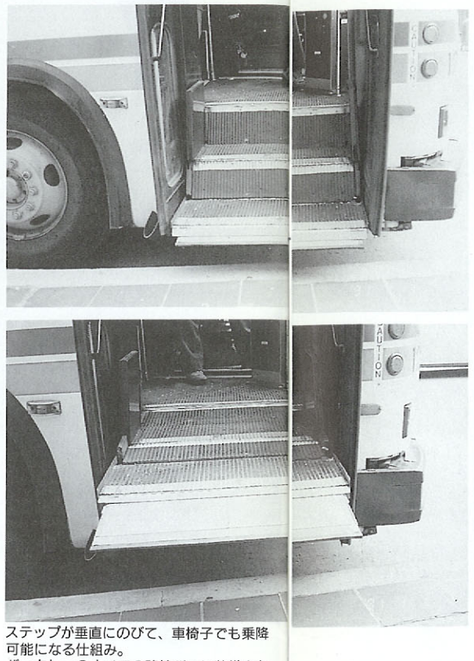
知事　私が知事になって最初に、ハンディを負った方々や遅れた地域の味方になりたいということを大きな目標として申し上げていたわけです。そして、障害者の方々から直接いろいろなお話を聞き、今度の予算では福祉の対策、あるいは働く人たち・勤労者のための政策に重点をおいたというのが特色だと思っています。

その中でも、新しいまちづくりを進めていくうえで**「障害者やお年寄りにやさしいまちづくり」**ということを考えています。車椅子では、県議会を傍聴しようと思っても二階に上がっていけない。県立美術館も立派だが利用しにくい。藤崎台の野球場もなかなか行けない。買い物や食事に出かけても、車椅子で使用できるトイレがない。だから街に出ていく時には前日から水を飲むのも控えてできるだけトイレに行かないようなことも考えなきゃならない、というような話を直接聞きまして、車椅子でもどこでも行けるようなそういう街にしていかなければならないと強く感じました。必要に応じエレベーターを設置し、スロープをつけたりドアを設置する。また、車椅子で安心して使用できるトイレも作っていかなきゃならない。そういうことをこれから重点的に積み重ねてやっていきたいと思っております。私たちでは気のつかないところがたくさんありますから、障害を持った方々に直接問題をぶつけていただいて、私たちはそれをできるだけ行政の場で実現していきたいと思っています。

成瀬　障害者の方から直接お話を聞くということ、これを県政でやっていただくと、市町村もそういう流れになるかと思いますので、是非よろしくお願いしたいと思います。私は、知事が以前福祉の問題で国会の場で涙されたという話を聞きまして、知事はハンディのある人たちの状態を頭の中でイメージできたんじゃないかなと思いました。知事のようにそういうことをイメージできる人や障害を持つ人を、是非行政の場に加えて欲しいと思います。市町村でもそれを見習ってやっていけたらと思います。

高齢者福祉について、西村さんから何かお話がございませんか。

一人住まいのお年寄り宅を訪問した成瀬さん、上がるとすぐに仏壇の前へ……。



ステップが垂直にのびて、車椅子でも乗降可能になる仕組み。

バークレーのすべての路線バスに装備されている。

施設と在宅
両面の充実が望まれる高齢者福祉

西村　私どものところのような施設に入られる方は数に限りがありますので、在宅福祉に力を入れていただきたいなと思います。そのためにもボランティアが必要だと思い、今、白寿園ではボランティアの研修会もやっております。また、**ショートステイ**[注1]や**デイサービス**[注2]などにも力を入れております。

ところで去年の秋、白寿園ではJRと協議しまして、寝たきり老人ゼロ作戦キャンペーン企画「列車の旅」を催しました。入園者の約半分の五十人が大牟田から三角まで旅行しました。なぜ大牟田からかと言うと、あそこは階段がなくて一番ホームが使えるんですよ。それで、ボランティアや社会福祉協議会、他JRの方、そして家族。いろんな方の協力がありましてやりました。お年寄りにはJRと言っても通用しませんので汽車と言ってですね。(笑)「本当に何十年ぶりに汽車に乗れた」と言ってものすごく喜ばれました。**援助があれば、施設だけの生活じゃなくて自分たちでも出ることができ、自信が出たわけなんです。**今度は飛行機に乗りたいと言われています。お年寄りも、今の情報社会を生きていく中で夢を持っていかないとですね。

知事　お年寄りの皆さんのために、老人ホームはもちろんもっと充実していかなければならないし、またそこに働かれる方々がもっと働きやすいようにしていかなきゃならない。また、今お話があったショートステイとかデイサービスによって、家に おられる方々が一層元気になられるような、そういうことも拡充していかなければならないでしょうね。

西村　デイサービスに来られる方はものすごく楽しみになさっておられます。今は共稼ぎが多ございますから、若い人たちが出た後は一人TV相手にしゃべっているとかおっしゃいますけど、来られれば一緒にご飯を食べたり、クラブ活動をしたり。大きな岩風呂もありますし。なごやかになって、なんか……。

知事　若く、いきいきとしてくる。

西村　ええ、生きがいがでてくるような。

①ショートステイ
寝たきりや痴呆のお年寄りを短期間、老人ホームでお預かりし、お世話をする。

②デイ・サービス
体の弱いお年寄りにデイ・サービスセンターで日常動作訓練、入浴、食事などのサービスをする。(送迎付)

福島知事
福祉
WELFARE
対談